

広報

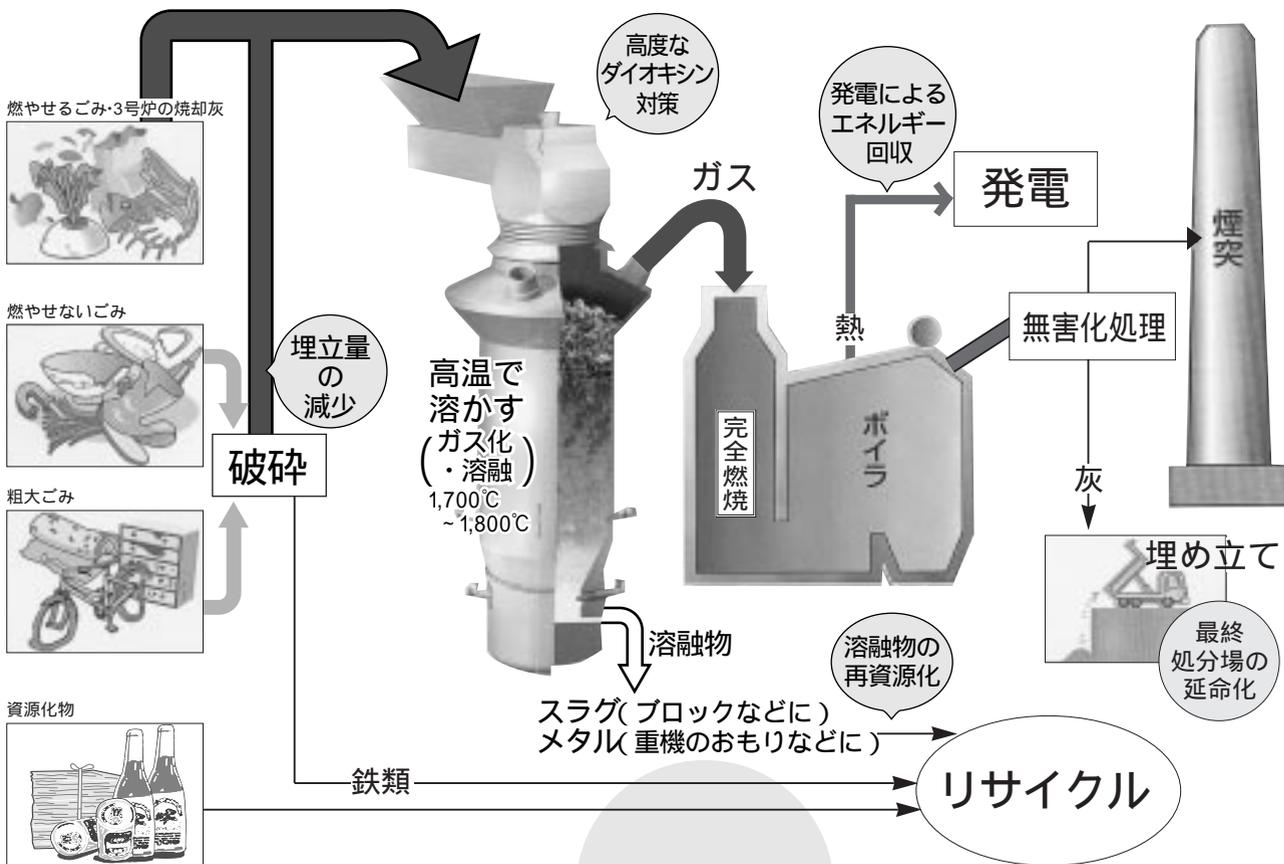
あきた

目次

- 2 - 3 市営バスの経営改革を考える
- 4 - 5 保育所の入所申し込みを / 就学時健康診断 ツベルクリン・BCG日程 / 結核の追加検診
- 6 - 7 市役所からのお知らせ / 介護保険Q & A 臨時福祉特別給付金を支給 / 水道のお知らせ票が変わります
- 8 - 9 情報チャンネル
- 10 市長の本の抄々 / ひと / おしゃべりかわらばん

毎月第2・第4金曜日発行 No.1443
 平成10年 編集発行 秋田市役所広報課 〒010-8560 秋田市山王一丁目1-1 ☎(863)2222
 秋田市ホームページ <http://www.city.akita.akita.jp/>

新焼却炉(シャフト型)によるごみ処理の流れ



御所野事業所のごみ焼却炉を更新
 ごみを溶かすニュータイプです

さきの九月市議会で、御所野事業所に二基の新しい焼却炉を建設する契約が可決されました。新しい焼却炉は、従来に比べダイオキシン対策や焼却後の再資源化に優れた「次世代型」を導入します。総工費は約二百二億円、完成は平成十四年三月の予定です。

高度なダイオキシン対策や埋立地の延命化がはかられます

シャフト型は、コークスを使って燃焼(溶融)温度を1,800度まで上げ、これまで燃やすだけだったごみを溶かしてガスにしまいます。

シャフト型には次のような特徴があります。破碎後の「燃やせないごみ」「粗大ごみ」や「3号炉で焼却後の灰」など、多様なごみを処理できます。良質で商品価値の高い「スラグ」「メタル」が取り出せ、道路の路盤材などに有効利用できます。ダイオキシンなど有害物質の発生を国の基準以下に抑えることができます。

地球温暖化の原因物質の一つであるフロン分解処理が可能です。

排熱を利用した効率のよい発電ができます。埋め立て量が激減するため、最終処分場は、従来の機種や次世代型の他の機種より3倍以上長く使えたと試算されています。

シャフト型では、燃料としてコークスを使うので、二酸化炭素(CO₂)排出量が従来型より増えることや運転経費がかかり増しになるという課題もあります。

他機種に比べ多くのメリットがあるだけに、代替燃料の研究をはじめ、二酸化炭素排出量やコストの削減にむけて努力していきます。

現在、御所野事業所では三基のごみ焼却炉が稼働しています。そのうち一号炉と二号炉は、稼働して二十年が経ち、著しい老朽化から建て替えが必要になりました。そこで市では、二基の焼却炉を有害物質の抑制や焼却後のリサイクルに優れた「次世代型」に更新することにしました。

ごみの処理技術では、ごみを燃やすのではなく、高温で溶かしガスにしてしまう「次世代型」が注目されていて、シャフト型やキルン型、流動床型などいくつかの機種が開発されています。

市では、毎日出されるごみを休みなく処理するうえでの確実性や安全性、コスト、資源化などを総合的に検討し、最適な機種としてシャフト型を導入することにしました。

シャフト型というのは、炉が縦型の筒状のスタイルであることからこう呼ばれていて、次世代型の中では唯一、国内で実用化され、稼働実績のある信頼性の高い機種です。

新しい焼却炉は、高度なダイオキシン対策がとられます。これまで直接埋め立てていたごみも破碎した後、に溶かして処理することができ、埋め立て処分する量も減ります。

また、ごみを溶かした後、商品価値の高いスラグなどを取り出すことができます。リサイクルを強力に推進できます。処理過程で発生した熱は発電に利用し、電力会社へ売却する予定です。

新しい焼却炉が完成しても、定期収集している家庭ごみの有料化や粗大ごみ手数料の見直しなど、市民のみなさんへの新たな負担は考えていません。

分別区分も基本的には変わりませんが、リサイクルプラザの稼働にあわせ、来年度からペットボトルのリサイクルを始める計画があります。リサイクルプラザは、次回の広報あきたで紹介する予定です。